

領域	評価単位	評価の観点	評 定				
			2	4	6	8	10
学 年 ・ 学 級 経 営	経営の方針	1. 学校・学年・学級の指導方針					
		2. 教育目標・努力目標を生かす					
		3. 学年経営の反省・改善の記録					
		4. 学級経営と教育目標・努力目標					
		5. 学級担任の能力、個性に応じ					
		6. 学級担任は創意くふうをしつ					
		7. 学級担任は家庭との連絡を密					
		8. 学級経営についての反省、記					
	反省・意見	○ 学級担任と生徒とが一体となった望ましい学級集団を実現するように努力しているがまだまだである。 ○ 学年会等の記録が必要である。					

〔考察〕 各学年とも2学級、全体で6学級（ほかに特殊学級1）の本校では、学年内はもとより、学年間の連絡調整も円滑に行われている。

また学業指導についても随時それぞれの教科担任から活発に行われている。

学年会記録が必要である。

領域	評価単位	評価の観点	評 定				
			2	4	6	8	10
教 科 指 導	年間指導計画	1. 指導計画の作成（目標・内容）					
		2. 指導内容の精選					
		3. 教科書の取り扱いは明確にな					
		4. 個人差に応ずる配慮がなされ					
	科	5. 指導計画に基づいて毎時の案					
		6. 単元（題材）に即して教材、					
		7. 教材や指導法の研究が個人的					
	指 導	8. 指導目標を明確にとらえてい					
		9. 指導の過程は、生徒の自主的					
		10. 教師の発問、助言、指示、板					
		11. 生徒の反応をたしかめながら					
		12. 教材、教具、学校図書館の資					
		13. わらいに即して到達度をとら					
		14. 指導の成果を評価し、指導の					
反省・意見	○ 教材研究の時間がとれない。 ○ 一時間一時間の指導のわらいが具体化されない。 ○ わかる授業にしたい。（指導のマンネリ化）						

〔考察〕 指導計画は積極的に活用している人は少ない。指導内容の精選についても、指導の効果をより高めるためにも絶えず計画を修正検討していくことこそ重要

である。指導過程は生徒の自主的な学習を高めるように、今後の授業のすすめ方に積極的に関心をもちすすめるべきである。

領域	評価単位	評価の観点	評 定				
			2	4	6	8	10
道 徳	指導計画	1. 道徳教育の目標が明確にされ					
		2. 指導計画は発達に即して系統					
		3. 指導内容は学年別に重点が明					
		4. 主題のわらいにふさわしい教					
	指導の方法	5. 生徒とともに考え、ともに問					
		6. 指導の方法や過程は主題のね					
	評 価	7. 指導の成果（考え方態度行動）					
反省・意見	○ 主体が副読本であり読解に終わることが多い。						

〔考察〕 道徳教育ほど、道徳教育に対する理解や関心、その計画実践において学校差の大きいものはないといわれている。

評定結果に見られるとおり、本校の場合もいくつかの問題点が見られる。

○ 「道徳の時間」について、指導の方法、指導過程についてのくふうがたりないこと。

生徒の魅力ある授業にまでもっていくことができな実態である。

○ 教材研究の不足により、主題のめざす道徳的価値について深く的確にとらえることができない。

○ 副読本だけにたよることなく、いろいろな角度から検討を加え、教材（題材）を選ぶことがたいせつである。

○ 道徳の時間と道徳教育の関連について、認識を改め、道徳教育の全体計画と指導計画を再検討してみる必要がある。

領域	評価単位	評価の観点	評 定				
			2	4	6	8	10
運 営 組 織	組織と分掌	1. 事務組織は学校の実情に即し					
		2. 事務組織は有機的合理的に作					
		3. 適材適所に配置されているか					
		4. 負担の均衡がとれているか					
	組織と運営	5. 分掌の内容や範囲について理					
		6. 分掌事務が責任をもって行な					
		7. 運営の実態が絶えず校長教頭					
		8. 校長教頭職員会議、校務分掌					
	協 力 関 係	9. 校長教頭その他教職員が相互					
		10. 分担以外の校務に関心をもち					